

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 号

Increased Stiffness of Rotator Cuff Tendons in Frozen Shoulder on Shear Wave Elastography

超音波剪断波エラストグラフィによる測定で凍結肩の腱板は硬くなる

和田 知樹 (わだ ともき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、痛みを伴う原発性の肩関節拘縮である凍結肩において腱板の弾性率変化の関連を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。凍結肩の病態においてどの組織がどのように硬くなるかはいまだに明らかになっておらず、凍結肩患者は早期の強い疼痛やその後の可動域制限によって苦しむことが多い。本論文において組織の弾性率を計測する装置である超音波剪断波エラストグラフィを用いて凍結肩患者の肩関節周囲の組織の弾性率変化を計測したところ、凍結肩早期である freezing phase で腱板の弾性率が上昇しその後の frozen phase で低下していた。この結果から凍結肩では過去に報告されている関節包や烏口上腕靭帯などの厚みの変化だけではなく、腱板における弾性率変化が関連していることが示唆された。この論文より、今後の凍結肩治療における診断や治療介入時期の検討が可能となった。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。